

戸田市下水道ビジョン 事業評価シート 令和6年度事業評価

| 施策 ※◎重点施策 | | 実行メニュー | | 指標 | | 数値目標 | | (参考)R5 個別評価 A:計画通り実施 B:遅れ・一部実施 C:未実施 | (参考)R5 施策 評価 | R6 個別評価 A:計画通り実施 B:遅れ・一部実施 C:未実施 | R6 施策 評価 | コメント【実施内容・今後について】 | | 担当名 | |
|-----------------------|---|--------------------------|----------------------------------|-----------------------|---------------|------|---|--|---|---|--------------------|-------------------|--|------|------|
| 1 健全かつ持続的な経営の確立 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◎ | (1) 【新規】経営計画の着実な実行 | ① 計画の点検（チェック） | 経営計画のチェック | 1回/1年 | A | B | A | B | 次年度予算作成時に経営計画との整合性をチェックしている。引き続き経営計画とのチェックを継続していく。 | | | | | 財務担当 | |
| | | ② 計画の策定 | 経営計画の見直し | 必要に応じて見直し | A | | A | | 令和8年度を始期とする上下水道ビジョン及び上下水道経営戦略の策定中であることから見直しを図っている。 | | | | | 財務担当 | |
| | | | 企業債残高（将来予測ピーク値）（令和4年度から数値目標変更） | 133億円以下 | A | | A | | 令和6年度決算企業債残高約132億円。雨水貯留管築造工事に伴い大幅に増加したが、今後は高利率の償還が完了する予定であり、借入額についても雨水貯留管築造工事が令和7年度竣工となるため、一定程度減少していく見込み。 | | | | | 財務担当 | |
| | | | 収益の評価（経常収支）（毎年値） | 黒字確保する | A | | A | | 黒字を確保している（経常利益：約5,300万円）。引き続き黒字確保を継続していく。 | | | | | 財務担当 | |
| | | | 運転資金 | 不足が発生しない | A | | A | | 運転資金について不足の発生はなかった。引き続き資金不足が発生しないよう資金繰りについて注視していく。 | | | | | 財務担当 | |
| | | | 内部留保資金 | 18億円 | B | | B | | 近年における節水機器等の導入による下水道使用量の減少並びに建設改良費の増加に伴う純利益の減少が考えられる。引き続き収益的収支について注視していく。（令和6年度末：約16億円） | | | | | 財務担当 | |
| | (2) 【継続】地方公営企業法を適用した開かれた経営 | ① 経営状況の公表 | 経営状況の公表 | 1回/1年 | A | A | A | A | 決算書及び経営比較分析表にて公表している。引き続き公表を継続していく。 | | | | | 財務担当 | |
| | (3) 【新規】人・モノ・カネの継続可能な一体管理＝アセットマネジメントの確立 | ① アセットマネジメントシステムの構築 | アセットマネジメントシステムの導入を検討する | 構築する | A | A | A | A | 平成27年度構築済。 | | | | | 維持担当 | |
| | ◎ | (4) 【新規】下水道使用料の適正化に向けた検討 | ① 下水道使用料検討 | 下水道使用料の検討 | 1回/5年 | A | A | A | A | 経費回収率は100%を超えている。引き続き下水道使用料収入について注視し、定期的に使用料改定の検討をしていく。 | | | | | 財務担当 |
| | | 【継続】上下水道事業経営審議会による経営改善 | ① 審議会の開催（本ビジョンの進捗報告） | 審議会の開催（本ビジョンの進捗報告） | 継続する | A | A | A | A | 令和6年度第3回審議会において、下水道ビジョン事業評価報告を実施した。 | | | | | 総務担当 |
| | | | ② 審議会答申、助言の施策反映への検討、可視化 | 審議会答申、助言の施策反映への検討、可視化 | 1回/1年 | A | | A | | 適正な水道料金の設定の諮問に対する答申を行う過程において、維持管理負担金や上下水道ビジョン策定等について検討を行った。 | | | | | 総務担当 |
| | | (6) 【継続】次期下水道事業計画の策定 | ① 新たな事業計画の策定 | 新たな下水道事業計画の策定 | 平成30年度までに策定する | A | A | A | A | 平成30年度に事業計画変更計画書を策定（施設の機能の維持に関する方針を追記） | | | | | 維持担当 |
| 2 老朽化や災害にも耐える強靱な施設の構築 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ◎ | (7) 【継続】ポンプ場の維持管理・改築の実施 | ① スtockマネジメント計画の策定 | ストックマネジメント計画の策定・維持修繕基準の策定 | 平成30年度までに策定する | A | A | A | A | 平成29年度にストックマネジメント計画を作成 平成30年度に維持修繕基準（事業計画変更計画書）の策定 | | | | | 維持担当 | |
| | | ② 改築対応 | 下戸田ポンプ場の改築実施率 | 平成30年度までに100% | A | | A | | 平成30年度実施率(目標100%) (実績100%) | | | | | 維持担当 | |
| | (8) 【新規】管路の維持管理・改築の実施 | ① 新点検基準に基づく点検と補修 | 新点検基準に基づく点検と補修 | 実施する | A | A | A | A | テレビカメラ調査を実施 | | | | | 維持担当 | |
| | | ② 管路内調査 | 重要な管路等の管路内調査実施率（特にリスク度の高い約100km） | 平成37年度までに100% | A | | A | | 令和4年度末100%完了 | | | | | 維持担当 | |
| | | | ストックマネジメント計画の策定・維持修繕基準の策定 | 平成30年度までに策定する | A | | A | | 平成29年度にストックマネジメント計画を作成 平成30年度に維持修繕基準（事業計画変更計画書）の策定 | | | | | 維持担当 | |
| | (9) 【継続】ポンプ場建築施設の耐震化 【新規】ポンプ場土木施設・機電設備の耐震化 【新規】耐水化の推進 | ① 耐震対策計画の策定 | ポンプ場耐震化実施率 | 建築のみ100% | A | A | A | A | 平成22、24年度に耐震化改修（新曽ポンプ場、下戸田ポンプ場） | | | | | 維持担当 | |
| | | | 耐震対策計画の策定（土木施設・機電設備） | 平成30年度までに策定する | A | | A | | 平成30年度に総合地震対策計画を作成 | | | | | 維持担当 | |
| | | ② 耐水化計画の策定（令和4年度から新規設定） | 耐水化計画の策定 | 策定する | A | A | A | A | 令和4年5月策定済 | | | | | 維持担当 | |
| | | ③ 耐水化の実施（令和4年度から新規設定） | 耐水化計画の実施計画（短期：令和8年度まで）に基づく工事 | 80% | A | A | B | B | 令和6年度工事未完了（入札不調により、令和7年度に繰越） | | | | | 維持担当 | |
| | (10) 【継続】耐震性のある管路の布設 【新規】未耐震管路の耐震化 | ① 耐震対策計画の策定 | 新設時における管路の耐震化実施率 | 100% | A | A | A | A | 新設管は耐震レベル1は確保している。 | | | | | 事業担当 | |
| | | | 耐震対策計画の策定（平成10年度以前の布設管） | 平成30年度までに策定する | A | | A | | 平成30年度に総合地震対策計画を作成 | | | | | 維持担当 | |
| | | | 耐震対策計画に基づくマンホールの耐震化（令和4年度から新規設定） | 令和7年度までに63基 | A | | A | | A | A | 令和6年度耐震工事より耐震工事を実施 | | | | |
| 3 非常時の危機管理体制の確立 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (11) 【新規】事業継続計画（BCP）の運用、訓練の実践 | ① BCPの再検討 | BCPの再検討 | 再検討する | A | A | A | A | 施設浸水対策を含む内容に見直しを実施 | | | | | 維持担当 | |
| | | ② 訓練の実践 | 行政職員、委託企業等を対象とした訓練計画の実践 | 1回/1年 | A | | A | | 埼玉県下水道災害対策実働訓練に参加 | | | | | 維持担当 | |
| | (12) 【継続】内水ハザードマップの活用、訓練の実践 | ① 内水ハザードマップの再検討 | 内水ハザードマップの再検討 | 再検討する | A | A | A | A | 平成30年度改定 | | | | | 維持担当 | |
| | | ② 机上訓練計画（DIG）の実践 | 机上訓練計画（DIG）の実践 | 1回/1年 | A | | A | | 市及び県の机上訓練に参加 | | | | | 維持担当 | |

戸田市下水道ビジョン 事業評価シート 令和6年度事業評価

| 施策 ※◎重点施策 | 実行メニュー | 指標 | 数値目標 | (参考)R5 個別評価 A:計画通り実施 B:遅れ・一部実施 C:未実施 | (参考)R5 施策 評価 | R6 個別評価 A:計画通り実施 B:遅れ・一部実施 C:未実施 | R6 施策 評価 | コメント【実施内容・今後について】 | 担当名 | |
|-----------------------|---|--|---|--|--------------------|--|----------------|-------------------|--|--------------|
| 4 官民連携の推進 | | | | | | | | | | |
| ◎ | (13)【新規】ポンプ場運転管理、窓口業務等の 包括的民間委託の導入・運営 | ① 包括的民間委託の導入 | 包括的民間委託を導入する | 平成28年度に導入 する | A | A | A | A | 平成28年度から「上下水道事業包括委託」を開始 | 維持担当 |
| | (14)【新規】包括的民間委託の拡充検討 | ① 包括的民間委託の拡充検討 | 包括的民間委託の拡充を検討する | 検討する | A | A | A | A | 包括的民間委託の拡充に向け、国等の説明会に参加し、検討を行った。 | 維持担当 |
| | (15)【新規】利用者サービスの拡充 | ① 下水道使用料支払い方法の利便性向上に関する 検討 ② 下水道使用料支払い方法、接続等に関するP R活動 | 下水道使用料支払い方法の利便性向上に関する 検討 下水道使用料支払い方法、接続等に関する P R活動 | 1回/1年以上 1回/1年以上 | A A | A A | A A | A | 令和4年度より導入したスマートフォン決済の利用件数が増加していることで、利便性向上に繋がっている。 上下水道事業広報紙、市HPで支払方法及び接続等を周知した。 | 料金担当 料金担当 |
| 5 汚水未整備地区の解消 | | | | | | | | | | |
| ◎ | (16)【継続】効率的・経済的な管路等の整備の推 進 | ① 汚水整備の効率的な推進 | 下水道整備率 | 面整備の進捗に合わ せて平成37年度まで に100%達成へ | B | B | B | B | 令和6年度整備率 実績：96.25%、計画：98.66%。 土地区画整理事業及び街路事業の進捗により、汚水管渠の布設位置の確保が困難な状況であり、事業速度が鈍化している。 | 事業担当 |
| | (17)【継続】本市都市整備部門との連携による汚 水整備の促進 | ① 市都市整備部門との連携 | 戸田駅周辺の新増地域の区画整理事業との 調整等 | 連携する | A | A | A | A | 土地区画整理事業及び都市計画道路前谷馬場線整備事業の担当課と事業内容の情報共有を随時実施し、連携を図った。 | 事業担当 |
| 6 雨に強いまちづくりの促進 | | | | | | | | | | |
| ◎ | (18)【継続】雨水整備の効率的な推進 | ① 雨水整備の効率的な推進 | 都市浸水対策達成率 (未整備区域のうち浸水箇所を優先) | 平成37年度までに 73.1% 併せて 早急に対応すべき場 所を優先的に改良 し、被害を低減 | B | B | B | B | 令和6年度達成率 実績：72.50%、計画：72.82%。 未整備区域のうち浸水箇所を優先に雨水整備を進めているが、比較的大断面となる雨水管渠の布設位置の確保が困難な状況 にある。 | 事業担当 |
| | | ② 雨水貯留管の整備（令和4年度から新規設定） | 北大通り地下空間に雨水貯留管を設置 | 令和7年度末完成 | B | B | A | A | 令和6年度はシールドマシンでの掘進作業が完了し、分水人孔の設置工事に着手した。引き続き、令和7年度末の完成に向 け整備を進める。（令和6年度第3回経営審議会にて、数値目標を令和6年度末から令和7年度末完成に変更することを報 告済み） | 事業担当 |
| ◎ | (19)【新規】局地的集中豪雨等に 対する新たな雨水管理計画の策定 | ① 新たな雨水管理計画の策定 | 新たな雨水管理計画の策定 | 平成30年度までに 策定する | A | A | A | A | 平成29年度策定済み | 事業担当 |
| | (20)【継続・新規】雨水貯留施設の 設置促進と浸透施設の普及 | ① 道路事業との連携による透水性舗装の整備 | 道路事業との連携による透水性舗装の整備 | 継続する | A | A | A | A | 道路事業（区画整理事業）で実施 | 維持担当 |
| | | ② 宅内雨水貯留施設の助成 | 宅内の貯留施設の助成 | 継続する | A | | A | | 令和6年度は2件の助成を実施。引き続き手続きの流れ等の周知を実施しながら継続していく。 | 財務担当 |
| | | ③ 宅地開発の雨水流出抑制の条例化 | 宅地開発の雨水流出抑制の条例化 | 条例化 | A | | A | | 平成28年度条例化 | 維持担当 |
| | | ④ 公共施設の雨水流出抑制の推進 | 公共施設の雨水流出抑制の推進 | 抑制施設の設置 | A | | A | | 公園工事に伴う指導 | 維持担当 |
| 7 市民への情報提供充実と下水道の理解促進 | | | | | | | | | | |
| ◎ | (21)【継続】広報・広聴活動の拡充による 情報提供充実 | ① 広報紙の発行 | 広報紙の発行 | 2回/1年 | A | A | A | A | 上下水道事業広報誌「みずのめぐみ」を2回発行した。 | 総務担当 |
| | | ② 新たな広報活動方法の検討 | 新たな広報活動方法の検討 | 1回/1年 | A | | A | | イベント等で使用する啓発品用の子供向けシールに広報誌「とだの水道下水道」のデジタル版のQRコードを印刷して配布し広報活動を行 った。 | 総務担当 |
| | | ③ 荒川水循環センターのイベント等への積極 的な参加検討 | 荒川水循環センターのイベント等への積極 的な参加検討 | 1回/1年 | A | | A | | 「下水道フェスタ」「消防防災フェア」へ参加し、出展した。 | 総務担当 |
| | (22)【新規】環境教育プログラムの実施 | ① プログラムの検討・教育委員会・学校への提 案 | プログラムの検討、教育委員会・学校への 提案 | 1回/1年以上 | A | A | A | A | 消防防災フェアで、体験型のイベントを実施した。工事見学会では、親子を含む多世代を対象とし複数回開催したことで、 参加者に多くの気づきを与えられた。 | 総務担当 |
| | | ② 出前講座の実施 | 出前講座の実施 | 1回/1年 | C | | C | | 令和6年度は依頼が無く実施しなかったが、引き続き継続していく。 | 財務担当 |
| | (23)【新規】双方向コミュニケーションの活用 | ① 双方向コミュニケーションの活用検討と実践 (令和4年度から表記を変更) | 双方向コミュニケーション方法の検討と実 践（令和4年度から表記を変更) | 検討する 実践する | A | A | A | A | 下水道施設の損傷状況等について、戸田市LINE公式アカウントからの通報を活用した。 | 維持担当 |
| 8 付加価値を活かした健全な水環境の再生 | | | | | | | | | | |
| | (24)【継続】合流改善対策後の適切なモニタリング による分流式下水道並みの水質確保 | ① 下水道法施行令に基づくモニタリングの実施 | モニタリングの実施回数 | 1回/1年 | A | A | A | A | 実施 | 維持担当 |
| | | ② 分流式下水道並みの水質確保（雨天時放流水 質） | モニタリングの結果に基づく分流式下水道 並みの水質確保 (雨天時放流水質) | 確保する | A | | A | | 水質を確保（BOD：40mg/L以下） | 維持担当 |
| | (25)【継続・新規】流域下水道や河川管理者等 との連携による、より良い水環境の創造 | ① さくら川への下水処理再生水の放流 | さくら川への荒川水循環センターの処理水 の放流 | 継続する | A | A | A | A | 2160m3/日の放流量の実施 | 維持担当 |
| | | ② 関係機関との合同検討会 | 関係機関との合同検討会 | 1回/1年 | A | | A | | 河川・下水道事業調整協議会の下部組織である担当者会議を令和6年12月に書面にて開催した。 | 事業担当 |